

# 稲作情報

Vol. 1 平成 26 年 6 月 4 日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部

問い合わせ先：本吉農業改良普及センター

TEL：0226-29-6044

ホームページ：<http://www.pref.miyagi.jp/my-nokai/>



**田植盛期は平年並の 5 月 17 日、生育はほ場によりばらつきあり**

**気象経過** 田植え盛期後 気温は平年を下回ったものの その後は高温で推移

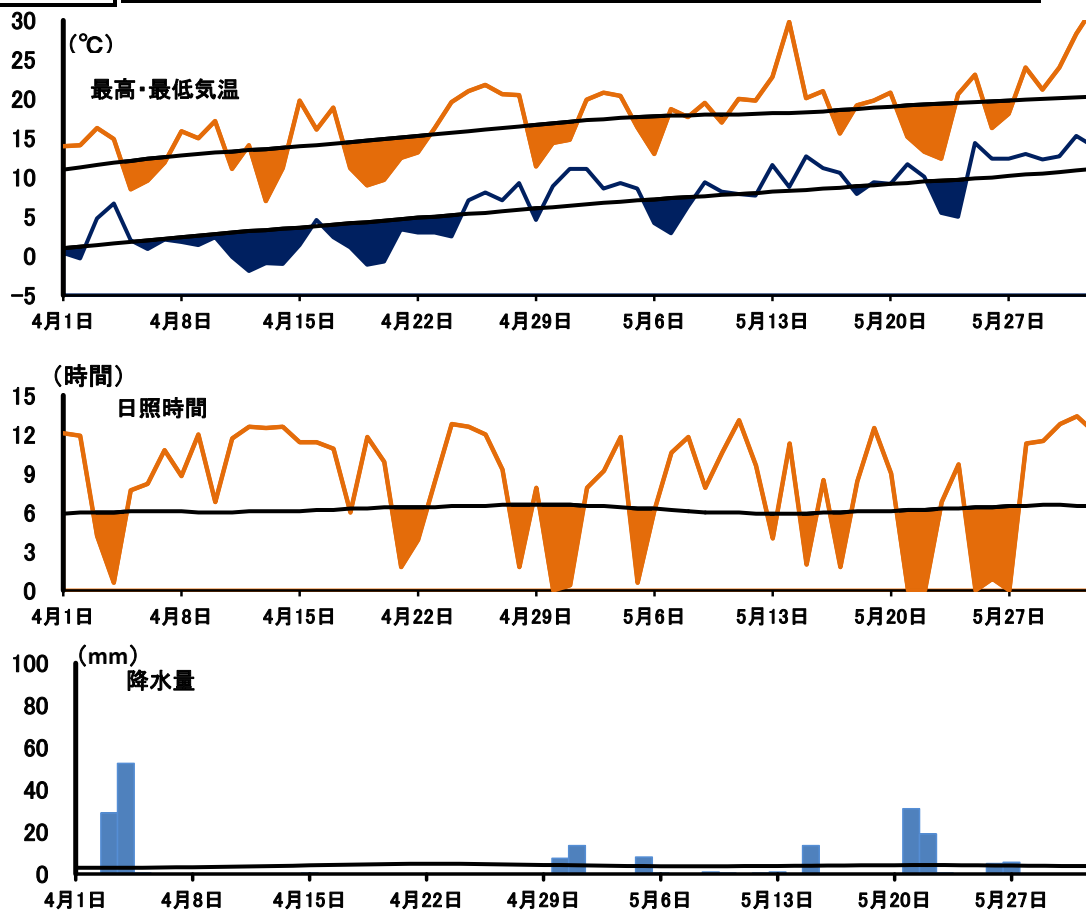


図 1 気象経過図（気仙沼アメダス：4 月 1 日～6 月 1 日）

5 月 3～4 半旬の気温は平年並～高めで推移し、田植盛期（5 月 17 日）後の 5 半旬は平年を下回る気温となりました。その後、6 半旬は平年よりかなり上回る気温で推移しました。

日照時間は、田植盛期後の 5 半旬は平年を下回りましたが、それ以外の水稻生育期間は平年を上回って推移しました。

降水量は少雨傾向で、代掻き作業が進まず田植えが遅れた事例もみられました。

表 1 半旬別気象表（気仙沼アメダス）

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H26	平年	差	H26	平年	差	H26	平年	差	H26	平年	比	H26	平年	比
5月1半旬	13.7	11.9	1.8	18.5	17.4	1.1	9.7	6.8	2.9	29.9	32.3	93%	21.5	19.6	110%
5月2半旬	11.7	12.5	-0.8	17.2	17.9	-0.7	6.2	7.5	-1.3	47.1	30.6	154%	2.0	18.5	11%
5月3半旬	15.9	12.9	3.0	22.5	18.2	4.3	9.7	8.2	1.5	40.0	29.6	135%	15.0	19.2	78%
5月4半旬	13.9	13.5	0.4	19.3	18.7	0.6	9.7	8.9	0.8	40.2	30.3	133%	0.0	20.3	0%
5月5半旬	13.5	14.2	-0.7	16.9	19.4	-2.5	9.3	9.6	-0.3	16.5	31.4	53%	50.5	20.8	243%
5月6半旬	17.1	14.9	2.2	22.0	20.0	2.0	13.0	10.5	2.5	49.9	39.1	128%	10.5	23.4	45%

## 播種・田植の状況 **播種盛期は平年より1日遅く、田植盛期は平年並**

管内の播種盛期は4月16日で平年より1日遅くなりました。苗の生育はおおむね順調でしたが、育苗期間中の平年を大きく下回る低温により、田植え直前に坪枯れ状となる苗立枯病の発生がみられました。また、田植盛期は5月17日と平年並でしたが、少雨の影響で代かきが進まず田植えが遅れる事例もみられました。

**表2 播種および田植状況**

	播種状況			田植状況		
	播種始期	播種盛期	播種終期	田植始期	田植盛期	田植終期
平成26年	4月12日	4月16日	4月20日	5月11日	5月17日	5月26日
前年	4月6日	4月14日	4月22日	5月10日	5月18日	5月26日
平年	4月6日	4月15日	4月23日	5月10日	5月17日	5月25日
前年差	6日	2日	-2日	1日	-1日	0日
平年差	6日	1日	-3日	1日	0日	1日

※始期、盛期、終期は、それぞれ水稲作付見込面積の5%、50%、95%で作業が終了した日  
平年は前5力年の平均値

## 田植後の生育経過 **ほ場によってはらつきあり**

6月1日現在の水稲生育調査ほの生育は、気仙沼市ひとめぼれでは草丈・茎数・葉数ともに平年を上回っており、平年より1~2日進んでいます。南三陸町ササニシキでは、草丈は平年より長いものの、田植え直後(活着前)の低温の影響により茎数・葉数は平年を下回っており、生育は平年より2~3日遅れています。

管内では、5月後半から海からの冷たい風が陸地に吹き込み、海沿いの田では活着が遅れる事例が多く見られましたが、5月6半旬からの高温で生育が回復しつつあります。

**表3 生育調査結果**

調査地点名 品種名		苗調査		田植調査			6月1日調査		
		草丈 (cm)	葉数 (枚)	田植月日	植付本数 (本/株)	栽植密度 (株/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)
気仙沼市	平成26年	13.3	2.5	5月13日	5.8	22.2	19.2	147	4.7
	前年	12.7	3.1	5月12日	4.9	21.8	19.3	129	4.1
	平年	13.9	2.9	5月13日	5.1	21.2	18.7	119	4.5
ひとめぼれ	前年差(比)	0.6	-0.6	1日	0.9	0.4	-0.1	114%	0.6
	平年差(比)	-0.6	-0.4	0日	0.7	1.0	0.5	123%	0.2
南三陸町	平成26年	15.3	4.0	5月16日	4.6	18.5	20.8	90.7	4.4
	前年	—	3.1	5月15日	5.1	18.8	20	107	4.6
	平年	—	3.1	5月16日	5.3	18.9	18.8	104	4.7
ササニシキ	前年差(比)	—	0.9	1日	-0.5	-0.3	0.8	85%	-0.2
	平年差(比)	—	0.9	0日	-0.7	-0.4	2.0	88%	-0.3

## 今後の技術対策

### ◎水管理

- 水深は浅水(2~3cm)として水温の上昇に努め、分げつの発生を促進させましょう。
- 低温や強風が予想される場合は5~6cmの深水にしましょう。
- 水かけは早朝に行い、日中は止水してください。日中に水かけを行うと水田全体の水温が高まりにくく、水口と水尻の水温差が大きくなり、生育ムラが生じやすくなります。

### ◎病害虫防除

#### 《本田初期害虫》

- 病害虫防除所の発生予察情報(5月26日発行)によると、イネミズゾウムシの発生量は、平年よりやや多く、イネドロオイムシの発生量は平年並の見込みです。
- 箱施用剤を使用した場合は、本田での防除は必要ありませんが、箱施用剤を使用しなかった場合は、以下の要防除密度を目安に防除してください。

- ・イネミズゾウムシ: 畦畔際から2m程度で成虫が稲 100 株当たり 130 頭以上見られるとき
- ・イネドロオイムシ: 侵入盛期(6月始め)に、成虫が稲 100 株当たり 25 頭以上、または卵塊が稲 100 株当たり 80 個以上見られるとき

## 《葉いもち》

- 早期の葉いもち発生は、感染苗の本田持ち込みによるものが多く、そこから菌が空気中に飛散して伝染します。ほ場に放置している残苗は、本田でのいもち病の発生源となりますので、補植が終わったらただちに土に埋めるなどして処分してください。残苗を処分する際は、苗にいもち病が発病していないかを確認し、発病があった場合は本田での発生に注意してください。
- 箱施用剤によるいもち病防除を行っていない場合は、オリゼメート粒剤またはオリゼメートパック等の水面施用剤を6月中・下旬に湛水状態で散布してください。

## ◎雑草防除

- 初期剤や初中期一発剤を散布しても雑草が残っている場合は、中・後期剤を散布し防除しましょう。
- 中・後期剤を散布する場合は、必ず雑草の種類や草丈・葉齢を確認し、適切な薬剤を選びましょう。農薬ラベルに記載された使用時期および使用方法に注意し、遅れないように散布してください。

### ～難防除雑草コウキヤガラについて～

本吉管内では、耐塩性が高く塊茎による繁殖能力が高い難防除雑草コウキヤガラが震災前から多発していましたが、震災の津波被害を受けた地域では、復旧までの休耕期間にコウキヤガラが増殖し、復旧後の水稻作に影響を及ぼしています。

コウキヤガラ対策について、古川農業試験場から新たな知見が得られたので、その一部を紹介します。

#### <本田での発生>

- 有効成分にピラクロニルやピリミスルファン、メタゾスルフロンを含む水稻用除草剤はコウキヤガラに高い効果を示します。

#### <休耕田での発生>

- コウキヤガラが繁茂した休耕田では、6月下旬までにグリホサートカリウム塩を有効成分とする休耕田用除草剤を茎葉散布することで、当年の塊茎は生産されるものの、翌年の萌芽は抑制されます。
- コウキヤガラが繁茂した被災休耕田において、作土を移動したりプラウにより反転耕することで、作土表層の塊茎数が減少します。



コウキヤガラ発生水田(6月)



コウキヤガラの地下茎

**補植用残苗は早めに処分しましょう！**